



能古博物館だより



甘棠館と修猷館

理事長兼館長 原 寛

1784 (天明4)年に誕生した福岡藩の西学問所「甘棠館」の跡地は現在、唐人町商店街(福岡市中央区)になっていて、道路を隔てた北側に案内の小さな石柱が建っている。

同時に発足した東学問所「修猷館」は、福岡城の内堀に沿って東西に長く伸びる大名町の一角にあった。そこには家老、中老、大組などの重臣たちが住む武家屋敷が並び、幅約50坪の内堀の対岸には福岡城が聳えていた。職住近接の一等地に誕生した修猷館は自ずと上級武士の子弟が通う学舎になっていく。

それに引き替え亀井南冥が館長の甘棠館は城下を内外に分ける「黒門」の外、西側にあつて、周囲には多くの寺と下級武士、町民の住まいが併存していた。サムライと町民の子弟が共に学ぶ学舎には、南冥の学風と性格を反映して下町風の活気があつたと言われる。

佐賀、長崎につながる唐津街道が町内を縦断していたから、学生たちはヒトモノの往来を頻繁に目撃したにちがいない。さらに西へ薦川を渡れば足軽の町「地行」で、小さな家の周りを珍竹塀が囲んでいた。



原 寛

細く短い竹は生活に困窮した下級武士が手内職の竹細工に使つたと伝えられ、敗戦後もしばら

くは竹林の塀が残っていた。

わずか14年——。甘棠館は南冥二代限りの短命に終わった。だが、その余韻は唐人町のそこかしこに残っている。商店街の西のはずれ金龍寺の山門には南冥自筆の大きな掲額が健在。商店街で印刷屋を営む上原孝正さんは南冥の縁者の末裔である。

医師としての南冥は一時福岡藩の儒医兼帯の地位にあつた。その学識と才知で藩主に重用されたであろうことは十分想像できる。そればかりか志賀島で発見された金印の鑑定、相島における朝鮮通信使とのやり取りは、彼の卓越した学識なからずんば、の印象が一層強い。

いわば功臣であつた南冥がなぜ藩の上層部に疎まれ、甘棠館が消滅したのか。徳川幕府の方針にそぐわなかったとされるが、残念の一言で片づけるには余りにも惜しい歴史の一齣である。

△写真説明▽ 西学問所跡の石柱(写真右)は唐人町商店街そばに建つ。掲額の文字は伸び伸びとしている(左上)。修猷館跡(左下)の碑はビルの所有者が建てた。
※6面に関連記事を掲載しています。

企画展開催中

能古博物館では11月27日(日)まで企画展「江戸時代・福岡地方の医学―原家・亀井家を中心に―」を開催しています。

江戸時代の医学史② — 企画展に寄せて —

久留米大学 吉田 洋一

一、貝原益軒

江戸時代の北部九州地方、特に福岡藩における医学の発達を言及しようとするとき、欠くことのできない人物は、貝原益軒(一六三〇—一七二四)です。貝原益軒は『養生訓』(正徳三・二七二年完成)や『大和本草』(宝永七・一七〇九年刊)の著者として有名です。

『養生訓』の構成は以下の通りです。

- ▽第一巻 総論上
- ▽第二巻 総論下
- ▽第三巻 飲食上
- ▽第四巻 飲食下
- ▽第五巻 五官
- ▽第六巻 病を慎む
- ▽第七巻 薬を用いる
- ▽第八巻 養老

「総論」では、人間はなぜ養生して長生きをしなければならぬか、という根本問題が説かれていま



貝原益軒肖像 能古博物館所蔵

す。「天地父母のめぐみをうけて生れ、又養はれたるわが身なれば、わが私の物にあらず…つつしんでよく養ひて、そこ(損)なひやぶらず、天年(天命)を長くたもつべし(巻第一、括弧補足筆者)」という文章には、現代にも通じる教

訓が含まれています。また、「飲食」では飲み方、食べ方について説き、「五官(耳・目・口・鼻・手足)」では、その働きと養生法が説かれています。『養生訓』は、現代で言う精神修養や自然療法などの有効性を説いた著作であり、その基本的な思考様式は中国医学の陰陽五行説に因っているものの、当時の生活に密着した記述がなされています。故に江戸時代を



「養生訓」能古博物館所蔵

通じて版を重ね、ベストセラーとなりました。

『大和本草』はいわゆる植物学事典であり、明の時代に完成した百科事典『本草綱目』①の分類法をもとに、益軒が独自に分類して

編さんしたもので、二三〇〇種以上の品目が掲げられています。元来「本草学」とは、中国医学に使用される薬草を中心として研究される学問で、薬草の効用などを詳細に検討し処方箋的な役割をも果たすものでしたが、同書の刊行により、日本の本草学は博物学としての要素も加えられるようになりました。

二、原三信

福岡藩は、幕領長崎に近く、佐賀藩と交替で長崎警備の任務を負っていたので、外国の情報、特に蘭

学に関する知識は、他藩に比べて容易に受容されていたと考えられています。しかしながら、西洋医学に関する認識が急速に高まるのは、やはり安永三年(一七七四)に『解体新書』が刊行されて以降のことです。

『解体新書』刊行以前の西洋医学に関する資料は全国的に極めて少ないのですが、現存するものとして有名なのが、原家に伝わる数点の資料です。

原家の初代は、黒田家が筑前五二万石に封ぜられた頃から、現地採用の医者として召し抱えられたと言われています②。以降五代目までの事績は現在のところ判明しておりませんが、六代目・原三信(名は元弘、代々「三信」を襲名、一七二二年没)は、貞享年間(一六八四—一八八年)に長崎・出島でオランダ人から医学を学び、二六八五(貞享二年)十月十八日付の医学修業の免許状を貰っています③。その免許状の大意は次の通りです。

下記に署名した医師アルバート・クローンは弟子原三信が外科技術を学び私の知ることをよく理解したこと、かつまたその詳しい知識を理解したことを認めるものである。

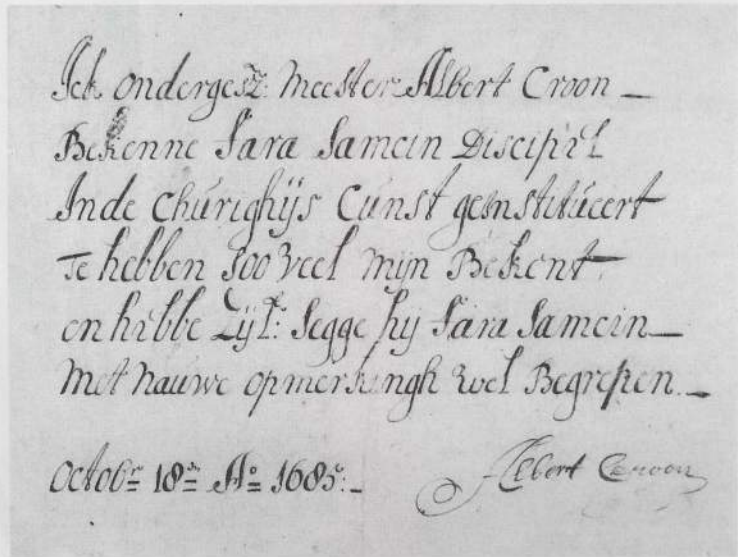
一六八五年十月十八日

アルバート・クローン④

この免許状には、当時の和蘭通詞が翻訳した漢文が付されており、その大意は以下の通りです。

貴殿は当年御奉行所より赦され、メストロ・ヘンデンキ・ヲフベイ阿蘭陀外科の一流、金創並びに膏薬油の使用法などを残らず相伝した。今後いよいよ療治の工夫鍛錬をされるべし(以下略)。

メストロ アルブルト・コロウス



免許状 (蘭文)

右の通り出島において阿蘭陀外科稽古の刻、御奉行様より御検使に添えなされ、両メストルによつて印家が赦された。これによつて阿蘭陀文字、印家の文章、相違ないことを証明する(人名略)。

貞享三年丙寅八月念九日

アルバート・クローン自筆と推定される蘭文と通詞が訳した漢文の日付(貞享三年八月十九日)⑤には約一年のずれがあります。実は当時、オランダ商館の医者として勤務していたのは翻訳文中に記されているオベ(オオベイ)であり、蘭文の免許状にも署名する予定であったと言われています⑥。恐らく、蘭文の免許状は現代で言う「免許申請書」にあたり、それに基づいて漢文の免許状が交付されたも

のと思われませんが、約一年交付が延期されたのは、一六八六年に発覚した密貿易事件に関与したオランダ人の中に、オベが含まれており国外追放処分が下されたからでした⑦。

免許状に加えて、「六代目・

原三信」の名を有名にしたのは、貞享四年(一六八七)九月二十六日付けの解説書がある「解剖図」の存在です。これは、西洋の解剖書(レメリンの『小宇宙鑑』二六三年初版と推定されている)を模写したものです。この解剖書の当時の写本は現在四点残っていて、その中でも原家所蔵のものは保存状態が良好で、歴代当主が「門外不出」として継承してきた様

がうかがえます。

レメリンの解剖書は、臓器や

筋肉を切り抜いて重ね合わせたもので、それぞれがめくれるようになつており、紙片は約一

二〇枚を数えます⑧。ゆえ

に作り方が複雑で一般にはあまり知られることがなかったようです。しかしながら、この解剖書の実用的価値を認識して

いた人の中に原三信元弘がい

たことは明らかで、まさに先

見の明があつたことは言を俟

たないでしょう。

貴殿事當年從
御奉行所被蒙
御赦免メストロ
ヘニテレキヲ
ベイ阿蘭陀外科
之一流金瘡并膏
藥油之取樣功能
迄具雖被得直傳
今度依 御赦免
某外治一流口傳
之仕掛藥方等不
殘令相傳畢自今
以後彌療治之工
夫鍛鍊可被致候
仍印家加赦之者
也且亦先年直傳
多年依執行今度
學頭備其功甚於
外治隨分可猛證
文如此

眞筆實録

右之通於出島阿
蘭陀外科稽古之
刻從 御奉行様
被爲添 御檢使
兩メストル被得
相傳此度印家赦
依之阿蘭陀文字
印家之文章無相
違委細和申所也
爲其眞書如件

阿蘭陀通詞

横山又右衛門

本木太郎右衛門

石橋助左衛門

中山六左衛門

楢林新右衛門

横山與三右衛門

本木庄大夫

加福吉左衛門

原三信醫老

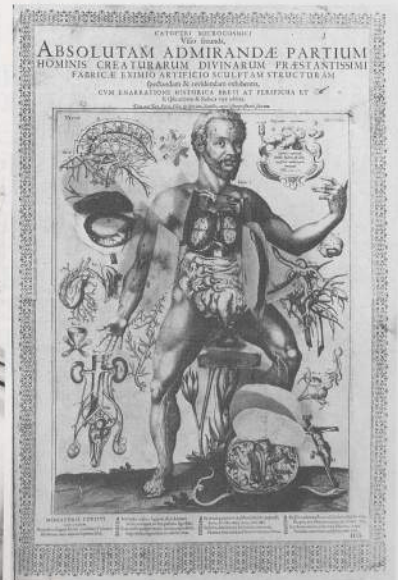
免許状 (漢文)



女性の解剖図(原家蔵)



男性の解剖図(原家蔵)



解剖図(レメリン)



外科術式絵巻 部分(原家蔵)

さらに原家には『外科術式絵巻』(部分)も伝えられています。
 これらの史料は、全国的に見てもオランダ流医学の先駆的位置づけをなすものですが、十七世紀の日本医学においては、あくまでも中国医学が医学の「本道」であり、原家もまた代々福岡藩医を継承するものの、医者としての地位的な向上は得られませんでした。
 「蘭学」というものが、オランダ人の江戸参府などを通じて全国の諸侯に認知され、それを受容することが有益であると考えられるまでには、やはり前述した『解体新書』の登場を待たねばならなかったのです。

① 明の李時珍(一五二一—一五九三)が約二七十年かけて編集した本草学事典。日本には一七世紀の初めには輸入されていたという。

② 原三信編集(著作権者)『日本で初めて翻訳した解剖書』(一九九五年初版、六代原三信蘭方伊三百年記念奨学会)序文参照。

③ 酒井シヅ「日本最初の西洋解剖書の翻訳—レメリン解剖書訳本と十七世紀の蘭方外科—」(『蘭方医三百年』一九八五年・原三信蘭方外科免許三百周年記念会編、所収)。以下原三信の事蹟に関してはこれによる。

④ 同右(注②)所収)九四頁。

⑤ 太陽暦で換算すると、二六八六年九月二十六日。

⑥ ミヒェル・ヴォルフガング「平田長太夫の阿蘭陀流外科修業証書とその背景について」(中津市歴史民俗資料館分館医学史料館叢書X『史料と人物Ⅲ』、中津市教育委員会、二〇一二年三月、所収)参照。

⑦ 同右(三二—三三頁)。

⑧ 前掲酒井氏論文。

(よしだ よういち・一九七〇年
 飯塚市生まれ、久留米大学文学部准教授、専門は日本近世儒学史・医学史、能古博物館非常勤学芸員)



吉田さん講演 10月26日夜、福岡市内のホテルで開かれた原土井病院の「開放型病院十四周年」の記念式典で、吉田洋一久留米大学文学部准教授(能古博物館非常勤学芸員)が記念講演を行った。能古博物館で開催中の企画展「江戸時代福岡地方の医学—原家・亀井家を中心に—」と同じタイトルで約30分間、主として原三信家とオランダ医学との関わりについて話した。出席者の関心は高く、講演後のパーティで吉田さんは熱心な質問を浴びた。

能古博物館所蔵「石橋家文書」から その5

捨て子・拾ひ子

(参照資料：石橋家文書41-1、254、
仮057、仮平成18-79)

友の会会員 石橋善弘

江戸時代の世相をあらわす話題として、喧嘩のつぎは捨て子である。江戸時代、国民の80%程度が農民であつたらしいが、労働力の点からすれば子供は多い方がいいはずであるにも拘らず、生まれるところには望む以上に生まれるもので、貧しさからくる墮胎や間引きがめずらしくなかつた。それでも生まれた子の処置に困つて、捨てる例も非常に多かつたようだ。

石橋家文書の中では、本稿で取り上げる4点が捨て子・拾ひ子に関するものである。年代順にならべてみよう。

天保8(1837)年10月、大庄屋格紙屋伊三郎が捨子を取り上げ養育した事に対して、お上から褒められている(仮番号/平成18-79)。

〔空白〕早良郡姪浜村 大庄屋格 紙屋 伊三郎
去ル十三日夜門口江頃日出生と相見候男子捨子有之候を早速取上養育致し置段奇特の至事
十月

この文書は包紙の中にあつたもので、包紙には「天保8年10月」と明記されている。男子の捨子を養育してお褒めにあつたのは紙屋注一伊三郎(後の石橋善三郎直実)である。お褒めの言葉は、「奇特の事」で打ち止めになっており、「奇特の事ゆえ、褒めて遣わす」などゴチャゴチャ云わないものらしい。

次は41-1番の文書であるが、それによると、嘉永4(1851)年正月12日の夕刻(四つ過)石橋家の門口に捨て子があつた。(写真1)はその子に添えられていた書付けである。それによると「嘉永13日生まれ、氏神は天まんぐう様、お取上下さい」とある。捨てたのは、同国同村の何者かである。「同国同村」というのは、いかにも書き慣れない者の書き方であるが、筑前国早良郡姪浜村(現福岡市西区)を意味しているらしい。生まれた月も書かれていないし、よほど慌てていたのだろう。それよりも興味をひかれるのは、このように簡単な書付けに氏神様が書かれている事である。実は他の例もあるのが、この時代、氏神様と関係づけることは、親として大変重要なことだつたらしい。なお、ここでいう天まんぐう(天満宮)は住吉神社(現福岡市西区姪浜3丁目)と思われる。

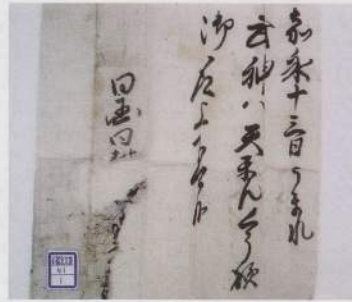
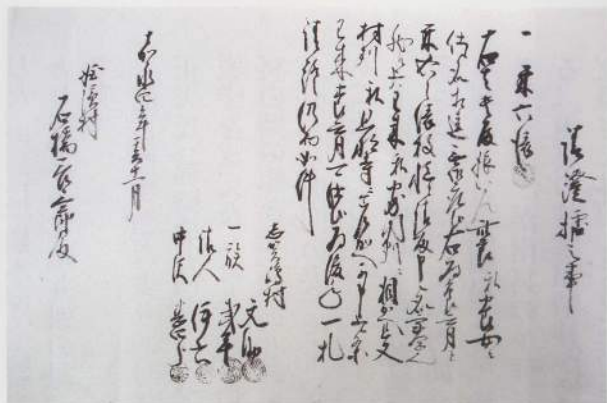


写真1

それで、この捨てられた子はその後どうなつたのか? ここでは捨子の性別がわからないので、本当の所はわからない。勿論、性別は現場で見ればわかることとであり、上のような書付けに書かれている筈もないが、たまたま年号の近い関連文書があるので、強引ではあるが、拾われた子が女子であつたと仮定して話を続けてみよう。仮番号/057の文書(写真2)によると、その子は、「いん」と名づけられ、約10ヶ月後(嘉永4年亥12月)志賀島村(現福岡市東区)の文助という者に養女として出されたらしい。その際、養育のためとして米6俵が渡されている。この文書はそのときの請証文であるが、文助の身元保証人として一族の武平という者が、また世話人・保証人として伊六、甚四郎が判を捺している。

なお、この請証文の宛名にある石橋善三郎は、先に

写真2



お上のお褒めにあつた伊三郎と同一人物である。

ところで、請証文には志賀島村の者の苗字は書かれていない。江戸時代も苗字はあるにはあつたのだが、庶民は苗字を名乗ることを許されてはいなかつたのである。それに対し、判は使えたようである。ところが写真2ではよくわから

ないかもしれないが、実は、文助と武平、伊六と甚四郎が捺している判がそれぞれ同じなのである。これはよくあることらしく、石橋家文書の中にも、3名が同一の判を使っているケースも見られる。この文書で用いられている文助と武平の判は一族の判らしいが、これがひよつとして苗字を示唆しているとすると、判によつて名乗ることを許されていない苗字を推測できるかもしれない。また、判を捺すことの意味が現代とは違つていて、文助なり武平なりの個人が責任をもつということではなく、家が責任をもつということになる筈である。他方、伊六と甚四郎の判は、「村判を押す」ということが書かれているので、志賀島村の判であることは明らかで、村が責任をもつということであろう。

さて、渡された米6俵の価値は? 米6俵は360キログラムとして、現在では大体14万円程度であろう。これを、養育費として高いとみるか安いとみるかは見

解が分かれるところだが、米の価値が相対的に現在より高かったようであるから、当時としては十分だったのではなからうか。

次に、254番の文書(写真3)では

「(空白)早良郡姪浜村 大庄屋格 石橋善三郎
去月晦日夕門口江女子之捨子有之候を早速取揚致
養育置候段相達是迄茂追々捨子有之候処致養育旁
々格別奇特之至及御沙汰江依之青銅五百文頂戴申
付候事
子四月」

とある通り、善三郎は女子の捨子を養育して、嘉永5(1852)年4月にもお褒めにあずかっている。今回は、「奇特の至りである事はお上のお耳にも達しているので青銅五百文を与える」というものであるが、単に「与える」という告知ではなく、「頂戴するよう申付ける」という命令である。青銅五百文は現代価格で2万円程度と思われるが、それを受取りにわざわざ早良郡姪浜村から福岡市中(現福岡市中央区)に出向く事を考えると、善三郎にとっては少々億劫に感じられる命令だったかもしれない。しかし、考えてみれば、いつの世であつても、お褒めにあずかること自体、お金や時間に代えられない意味があるのであり、善三郎は大いに喜んでに違いない。

石橋家では、この他にも拾い子があつたようである、その都度郡役所に届けるのは当然として、子供が死亡した場

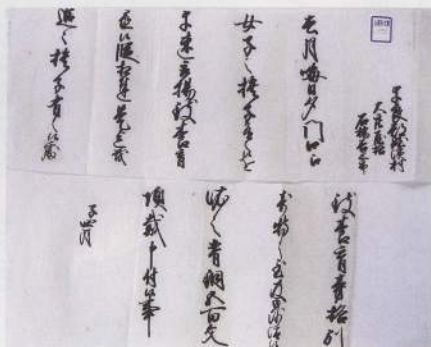


写真3

合には当主の名前で白毫寺(福岡市西区姪浜3丁目)に葬っているし、養育中に宗旨改めなどがあつたような場合には、家族と同様に(続柄は拾い子として)届け出ている。

郡部にあつた石橋家でさえ、証拠が残っているだけでも、短期間にこれだけの拾い子があつたのだから、人口密度の高い市中の富裕商人はもつと大変である。実際、福岡城下湊町にあつた醸造業・廻船問屋で有名な加瀬家注2)では、加瀬元春の時代、即ち文化6(1809)年から天保5(1834)年までの間になんと16人、また元春隠居後、加瀬嘉兵衛がさらに16人の拾い子をしている。その都度役所に届け出し、しばらく養育して、しかるべき金子・米をつけて養子に出しているのである。

ところが、このようなやり方だと、よからぬことを思いつく者が出てくる。実際、養育費(養育米)詐取を目的として養子にとり、直後に捨てた事件もあつたのである。そのようなケースでは、すぐに手が後ろにまわるであろうことは目にみえているが、いつの世にも浅はかな悪知恵の働く者がいるものではある。

いずれにしても、子供を捨てるなら裕福な家の門前にとつて親心だらうし、そのような捨て子を拾つてしばらくの間でも養育すること、あるいは幾ばくかの養育費をつけて養子に出すというようなことは、当時、富裕層にとつては当然の社会的責務だつたのであろう。現代でいうところのオブリジェ・ノブリスである。

注1「紙屋」は姪浜日過町石橋家の屋号。

注2 加瀬家記録 安川巖校注(日本都市生活史料

集成―城下町篇)。

(いしばし よしひろ・東大院卒・名古屋大学名誉教授・理学博士)

ひと

唐人町商店街の

上原孝正さん(64歳)

亀井南冥の長男昭陽の筆になる書幅数点を家宝にしている。

「上原氏のため」と題し、親密な関係を窺わせる作品だ。「先祖は黒田如水に従つて福岡入りした武士でしたが、訳あつて塾居、商人になりました。屋号は「橋本屋」、南冥の経済的支柱のひとりで、やがて亀井家の縁者と結ばれたそうです」。



能古博物館だより39号に掲載された早船正夫氏(福岡地方史研究会会員)の連載「亀井家学を支えた女たち(4)」の系図を見ると、南冥の姉の嫁ぎ先「姪浜五島屋」の係累に唐人町上原太左衛門の妻「モト」がいる。この縁組みのことだろうか。

上原さんは甘棠館の跡地で印刷業や不動産業を営む。商店街の再開発に伴って出来た小劇場「甘棠館劇場」では、地元の劇団「ショーマンシップ」が南冥の生涯をたびたび取上げる。「南冥の甘棠館精神が今に生きています」。上原さんは嬉しそうに話した。(む)

「サンデーナイト講演会」に 2000人集う

寄金97万2千803円を贈呈

NPO法人「ロシナンテス」の理事長川原尚行医師(46歳)の活動報告を聴こうと企画した「サンデーナイト講演会」は約2000人を集め、9月18日午後6時半から福岡市の中央市民センターで開催した。(主催「新老人の会」九州支部、後援「福岡市医師会」、協力「能古博物館友の会」ほか)。

石橋多々幸^{たたら}こと石橋哲治^{たけはら}さんから賛助出演

能古出身のKBCお天気キャスター石橋哲治さんが会長を務める「博多にわか五月会」の賛助出演でにぎにぎしく開幕。川原医師は「現地報告」スーダンと東日本「子どもたちへの約束」と題し約50分間、映像を交え熱く語った。



「世界の子どもたちに『はちどりの1滴』を」と川原医師

終わって能古博物館の原寛理事長兼館長は、今春以来博物館の「友の会」が中心になって集めた支援の活動資金97万2千803円を川原医師に贈った。

6月初めから準備を始め、企画運営の大部分は能古博物館が担った。サポーターズ制度をフル活用、友の会の会員以外にも参加を呼びかけ、裏方を務めてもらった。

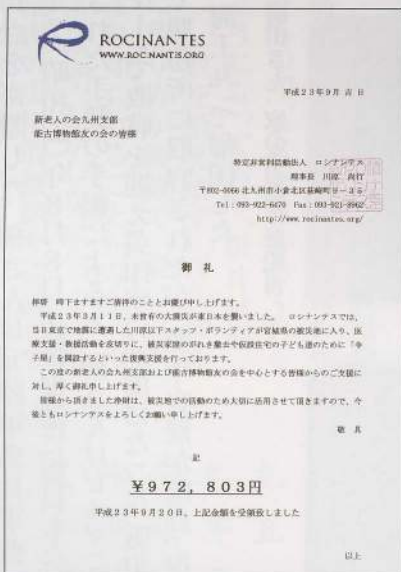
また恒例の「ワンコイン募金」の募金箱を会場入り口に置いて協力呼びかけたところ、8万9千885円の浄財が集まった。来年度の支援資金の一部に充当する。



▼石橋哲治さん(左端のお面)と「博多にわか五月会」の舞台



▲寄金贈呈を終えて。左から原理事長兼館長、川原医師、朝・九州医療センター名誉院長



ロシナンテスの日本事務局(北九州市)から御礼を兼ねた領収書が届いた

◆「ロシナンテス支援寄金」◆(敬称略・追加分)

「団体」新老人の会九州支部韓国語学習グループ
「個人」▽北原左近

福岡市無形民俗文化財

おとんち

のスナップ

▽いつ10月8・9日
▽どこで「老人いこいの家、白髭神社」
ひらひげ



前日の準備。栗のモリモン(盛り物)作り



炊きあがった新米でオキヨウ(御供)作り



白髭神社の鳥居をくぐる柿とみかんのモリモン。能古島伝統の行事に多くの島民が集まった。

64年前の引揚げ証明書 見つかる

貴重な資料ぞくぞく

仏壇の引き出しから

「右は昭和22年3月19日博多港に上陸セルコトヲ証明ス 厚生省博多引揚援護局長」。

元南満州鉄道(株)社員廣田恒次さん(当時数え年53歳)、妻静枝さん(同45歳)、長女恵美子さん(同11歳)の一家3人は敗戦1年7ヶ月後、旧満州大連から博多港に引揚げた。証明書の給與金品記載欄には「外食券1人當拾枚、乾パン済、被服済、煙草済」といった記入がなされ、備考欄には「上陸地ヨリ鉄道ニ乗車ノ場合ハ乗車駅ニ本証明書ヲ提示シテ引揚乗車票ノ交付ヲ受ケテ下サイ」とある。食糧難を反映して主食や味噌、醬油の応急用特配購入券(有料)が付いていた。落ち着き先の市町村役場で転入手続きをする際にもこの証明書が必要だった。

粗末な紙片1枚に、敗戦によって暮しの基盤を全て失った厳しい現実が、悲しいまでに凝縮されている。

恒次さんは預貯金に励み、一人娘の恵美子さんのために生命保険を複数口座掛けていた。社員貯金通帳の残額だけでも2千765円83銭。敗戦直前の7月28日にも2000円預けていた。

廣田恵美子さんの話 寄贈した資料は仏壇の引き出しに亡父が仕舞っていたものです。預貯金が1万円溜まったら日本へ帰る、というのが父の口癖だったそうです。母も76歳で亡くなり、資料をこのままにしておいてもと思いい寄贈しました。

元陸軍憲兵軍曹

故榊豊彦さんの遺品

福岡市南区柏原のブティック経営濱崎須美子さんは兄の榊豊彦さん(2009年没・享年87歳)の遺品10点を寄贈した。榊さんは元陸軍憲兵軍曹。1947(昭和22)年8月8日、佐世保港に復員した。寄贈された手製の手帳によると、榊さんはビルマ(ミャンマー)で敗戦を迎え英印軍の捕虜になった。戦犯容疑で刑務所に収容されたが、翌年容疑が晴れ、復員船「海王丸」で帰国した。

廣田さん一家の引揚げ証明書



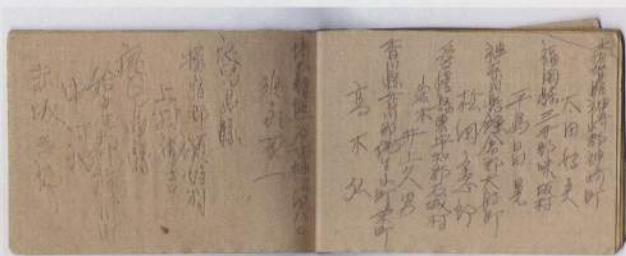
廣田さんの寄贈資料



寄贈資料

▽寄贈者 福岡市早良区百道 広田恵美子さん

(1)引揚げ証明書(2)引揚げ者調査票(3)閉鎖機関南満州鉄道(株)の支払い案内書(4)履歴カード(5)保険院の保険金領収帳(6)同第1回の領収証(7)郵便貯金



故榊原豊彦さんが手作りした手帳

通帳(8)大連貯金管理所長名の大東亜戦争特別措置貯金証書(9)富国徴兵保険相互会社の出生生存保険証券(10)保険院簡易保険局長名の保険証書(11)南満州鉄道(株)の社員貯金通帳(12)出生生存保険の領収証2枚(13)南満州鉄道の未使用封筒1枚(14)戦前の日銀券10円札3枚、同1円札1枚(15)戦後の日銀券10円札4枚(16)戦時郵便貯金切手2枚(17)シンガポールの1ドル札1枚(18)引揚げ者特別交付金国債証書・額面11万円(19)同2万円(20)亀井光福岡県知事名の特別交付金認定通知書(21)写真3枚

▽寄贈者 福岡市南区柏原 濱崎須美子さん

(1)手製の手帳(2)復員証明書(3)英軍部隊への私金引渡し証明書(4)マラリア発病の事実証明書(5)予防接種実施の証明書(6)所属部隊の福岡県人会名簿(7)同九州地方及び地方班代表者名簿第20、40号 (8)武器弾薬禁制品の所持証明書(9)東南アジア連合軍最高司令部発行の日本語新聞「世界時報」2枚(10)故人の写真2枚

1日当たり入館者 100人達成

講演会など特別なイベントを開催した日を除く通常営業日の入館者が10月9日(日)、初めて100人の大台に達した。正確な記録が残されていないので断定は出来ないが、少なくとも現在の新態勢が充足した2008(平成20)年5月1日以来初の大台達成。この日は秋晴れの天候と大口の研修会、団体に恵まれ、船着き場のポスターを見た県外の観光客が訪れるなど、企画展効果もあった。

来館者の内訳は次の通り(数字は人数)。
▽一般39▽研修会30▽団体16▽観光案内所経由2▽喫茶のみ3▽友の会員2▽中高生1▽小学生以下4▽その他(取材)3 ※友の会員の項目は入場無料。

「本館来訪」

- ・10月1日 北柳会(伝習館高OB)12人。
- ・10月7日 輛の浦歴史民俗資料館(福山市)1人。貸出し資料受け取り。
- ・10月9日 句会・菜燬火・同人 日野原ホール30人。
- ・10月15日 原看護専門学校研修会 日野原ホール25人。

「お断り」

館だより第64号の見学記「みちのく丸」で、「みちのく北方漁船博物館」の昆館長とあるのは昆理事の誤りでした。訂正します。(編集部)

能古博物館協賛会・友の会

継続・新規会員

(平成23年10月現在)

法人協賛会員

- ・医療法人 笠松会有吉病院
- ・税理士法人エム・エイ・シー
- ・ギヤラリー倉
- ・医療法人社団江頭会さくら病院
- ・医療法人社団廣徳会岡部病院
- ・多々良福祉会 特別養護老人ホームなごみの里
- ・多々良福祉会 たいようの里
- ・(株)CDS
- ・福岡メディアカルリース
- ・医療法人恵光会 原病院
- ・(株)サンコー
- ・浄満寺
- ・(株)メディアカルアシスト青葉
- ・(医)大乗会 福岡リハビリテーション病院
- ・(株)彩苑
- ・(株)豊友技建工業
- ・エームサービス(株) HSS九州事業部
- ・(有)トータル・サポート・コーポレーション
- ・(株)ホームケアサービス
- ・西日本シティ銀行土井支店

個人協賛会員

- 明石 散人
- 足立 晴道
- 安藤 文英
- 石野 智恵子
- 出口 親
- 上崎 典雄
- 上野 道雄
- 岡部 きよみ
- 柏木 重人
- 亀井 准輔
- 久保 千春
- 熊谷 豪三
- 毛戸 彰
- 朔望
- 朔元 則
- 昴地 三郎
- 仁保 喜之

友の会会員

- 石橋 善弘
- 一鬼 秀之助
- 市丸 喜一郎
- 出光 芳秀
- 井上 昭義
- 稲葉 英彦
- 今永 一成
- 今村 さち
- 石清水 由紀子
- 岩本 博秀
- 上田 恒久
- 上田 博
- 上田 玲子
- 上原 孝正
- 上村 八郎
- 魚住 夫佐子
- 牛島 弘子
- 内山 茂美
- 内山 節子
- 宇都宮 邦子
- 宇海 眞記子
- 梅埜 眞天
- 浦田 裕
- 江口 正一
- 江崎 小二郎
- 江原 幸雄
- 大石 恭仁子
- 大野 彩子
- 大木 照子
- 大智 玲子
- 大庭 浩司
- 大庭 静枝
- 岡部 九州生
- 岡本 顕實
- 小川 誠
- 小川 道博
- 小野 美枝子
- 小野 崎 徹
- 小島 裕
- 柏木 和子
- 香月 悦子

協賛会・友の会 入会のご案内

- (一)協賛会会員
 - 個人100 一万円
 - 法人100 三万円
 - (何口でも可)
- (二)友の会会員
 - 100 三千元
 - (何口でも可)

※会費の納入方法 郵便振替 0173036070 財団法人能古博物館

- (1) 振込み料は当館にて負担させていただきます。
- (2) 受け付け次第、会員証とコーヒークレットをお送り致します。
- (3) 会費有効期限は1年と致します。
- (4) 入館時に会員証(同伴1名まで有効)を受付にご提示下さい。ご入館は随意で回数制限はなく無料です。
- (5) コーヒークレットで挽きたての香り豊かなコーヒーをサービス致します。
- (6) 能古博物館だよりを年数回お送り致します。また、会員の皆様の御寄稿、ご意見は同誌に掲載致します。但し諸事情で掲載を見送る場合がございます。
- (7) 館が企画する催物のご案内と参加費の割引を致します。



ようこそ博物館へ

凡例

- 主な道路
- お勧めコース① (能古学校前バス亭から徒歩約3分)
- お勧めコース② (渡船場から徒歩約10分)
- 散策路
- 健脚向きコース (渡船場から徒歩約5分)
- 名所・旧跡
- 食事・みやげ物店など
- 博物館案内板
- バス停

アクセス

西鉄バス

- ・JR博多駅 博多口正面Aのりば
300、301、302番 能古渡船場行: 約50分
- ・天神 三越前1Aのりば
300、301、302番 能古渡船場行: 約30分

市営地下鉄:「姪浜駅」下車 乗り継ぎ

- ・西鉄バス姪浜駅 南口
98番 能古渡船場行: 約12分
- ・タクシー: 約 8分

市営渡船(フェリー)

- ・姪浜-能古島間: 約10分

能古島渡船場より博物館まで

- ・徒歩: 約5分~10分
- ・アイランドパーク行き西鉄バス停
「能古学校前」下車、徒歩(下り坂)約3分

問合せ

姪浜旅客待合所 TEL 092-881-8709
能古旅客待合所 TEL 092-881-0900

開館日/毎週 金曜・土曜・日曜と祝日

(注) 冬季(12月~1月)は、年末年始及び展示物入れ替えなどで長期休館を原則としています。御用の場合は事前にお問い合わせ願います。

開館時間/10:00~17:00(入館16:30まで)

※団体の場合は休館日にかかわらずご相談ください
団体20名以上2割引

入館料/大人400円・高校生以下無料

	姪の浜 発	能古 発
5	15	00
6	30	15 45
7	00 30	15 45
8	00 30	15
9	15	00
10	15	00
11	15	00
12	15	00
13	15	00
14	15	00
15	15	00
16	15	00
17	15 45	00 30
18	15 45	00 30
19	45	30
20	30	15 45
21	00	45
22	00	45
23	00	45

◎印は日祝日運休 2010年10月現在

渡船場からアイランドパークへの西鉄バス時刻表(平成23年7月16日現在)

渡船場前発(能古学校前まで約2分)

時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
平日	12 55	45	30	30	55	35	35	35	45		
土曜日	12 55	45	30	30	55	35	35	35	45		
日・祝日	12 55	45	30	30	55	35	35	35	45		00

アイランドパーク発(能古学校前まで約8分)

時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
平日	30	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
土曜日	30	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
日・祝日	30	20	3	13	28	18	18	18	18	28	38

※ 繁忙期はバス、渡船とも臨時便が運行されます。



財団法人 亀陽文庫

能古博物館

〒819-0012 福岡市西区能古522-2 TEL 092-883-2887 FAX 092-883-2881
http://nokonoshima-museum.or.jp E-mail info@nokonoshima-museum.or.jp